

越を訪問し其仲裁辭任を言明したり。

▲友愛會の策戰

市社會局野崎氏の調停失敗に因り、端なくも茲に三越洋服部技工を率ひて三越に對抗せんと決したる友愛會の棚橋麻生兩氏が胸中には、種々なる感慨の湧起せざるを得ざりき、同吳服店が其背景とする三井王國こそは、友愛會の同胞か九州地方の諸炭坑に於て、枚擧に暇なき壓迫と打撃とを蒙らしめられたる積怨の大敵にして、之に對する報復の念慮は兩氏の心中瞬時も離るゝ能はざりし處、而も好機會は眼前に現はれ來る、最早成敗の如きは其眼中になく、死を以て敵に臨むの覺悟を與へたり。

之れと共に更に、兩氏の戰意を加へしめしものは、三越吳服店が常に全國流行の源泉となり、虚飾を喜ぶ都人士の樂天境たる地位を占めつゝあることは、半面に無産労働階級の日常反感を培ひつゝあるは掩ふべからず、此間の消息を利用して一般の同情を己れに吸引する事の可能性を察知せしと、更に重要な原因は、味方の會員が一般工場に於ける職工と異り、罷業資金に窮せざると、洋服技工に對する需要は他の一般職工と相違して決して衰へず、從つて戰ひ敗るゝとも失職の憂ひなく、又例令打撃を受くる事ありとも新附の組合なれば他の古き組合に比し其度の著しく輕かるべきことゝは、益益兩氏の策戰上に便宜を與へたる觀あり、唯茲に策戰上一つの困難は、三越吳服店を大顧客とする新

聞紙が、其の營業政策上より其嚮背の不明なるにありき。

然しながら兩氏の策戰の第一段として左記宣傳ビラ三千枚は、市民一般の對三越反感を助長すべく全都に撒布されたり。

同盟罷業に付市民諸君に訴ふ

(原文のまゝ)

三井の横暴貪婪は天下公知の事實である。日本最大の資本家であり乍ら自己の利益の爲めには國家も糞もない。官吏に聞け、商人に聞け、労働者に聞け、誰れ一人として三井の慘忍を呪咀奮慨せぬ者はない。買収、壓倒、威嚇、自己の利益のためには巨大の資本力を擁してあらゆるものを壓伏し去り其の暴戾に泣く者は幾何あるかを知らない。而も斯くの如くにして得た利益は殆ど悉く三井並に其重役の懐ろに捻ぢ込まれるのである。

諸君は三井經營にかゝる炭坑に於て工場に於て、其炭坑と工場とに使役さるゝ労働者の生活の如何に悲惨なるかを知れりや。我等今回の微少なる要求は重役の懐に捻ぢ込むサツタバのたゞ一とくくりで事足るのである。然るに彼等は横暴にも只に此要求に一顧を與へざるばかりでなく、卑劣にも百二十餘名を一擧に蹴首し、吾等の人格を蹂躪し去つた。

斯くの如き行爲は果して皇室の藩屏として貴族の列に並ぶ三井のなすべき態度であるか。